

## 献 辞

本研究施設、施設長桑原正信教授は、本学の定めるところにしたがって、本年3月末日をもって、本学を退官されることになった。

桑原教授は、昭和9年京都帝国大学農学部農林経済学科を卒業後大学院に進み、助手を経て、昭和14年講師となり、以来約30年、助教授、教授として、研究ならびに教育に精進せられた。

教授は、一貫して農業経済の研究における科学的使命を強く認識せられ、現におこっている出来事を客観的に呈示することの重要性を強調せられている。教授の農業簿記に関する研究と資料の分析は、その一結晶である。

本研究施設は、教授のこの学問的態度への確信と、農民に対する深い愛情、自己の権威を、自己の主張によって呈示されず、例示と説得によって終始される温厚な御人格によって、はじめて創設される所となり、ささやかながら、わが国における農業の個別的、ならびに社会的会計研究に重要な礎石をおくにいたっている。

教授は御健勝で、研究指導にさかんに御活躍中であり、われわれは、いま本施設において、この偉大な研究指導者に対する離別をなお信じ得ないでいる。

顧みて、教授の御業績をたたえ、ますます御研究をすすめられるようお祈りし、後進を御指導賜るようお願い申上げる。

昭和43年2月

編集者代表 貝 原 基 介